

「子どもの生活状況調査」の結果報告（抜粋）

I 調査概要（p.1）

1 調査の目的

今後の子どもの貧困対策における効果的な支援のあり方を検討するため、市内の小中学校と連携して、市全体の子どもの生活状況や学習環境などについて調査しました。

2 調査設計

- (1) 調査対象者 : 小学校及び義務教育学校5年生とその保護者、
中学校2年生及び義務教育学校8年生とその保護者（在籍児童数全数）
- (2) 調査方法 : 無記名による、学校を通じた配布・回収
- (3) 調査期間 : 令和7年2月17日（月）～2月28日（金）

3 回収結果

	発送数・配布数 (在籍数)	有効回収数	回収率
① 下記②と③の保護者※	1,553	1,107	71.3%
② 市内の小学校及び義務教育学校 5年生	747	580	77.6%
③ 市内の中学校2年生及び義務教 育学校8年生	806	612	75.9%

※当該年齢でのきょうだい児の場合、保護者票は1つのみの回答としている。

Ⅱ 調査結果の比較概要（p. 2）

【要素1】低所得

年間の家族全員の収入（税金と社会保険料などを引く前の総額（額面））の合計額が一定水準である162.5万円未満とみなされる世帯

※本調査から算出された「等価可処分所得」の中央値（325万円）の50％（162.5万円）を基準

【要素2】家計の逼迫

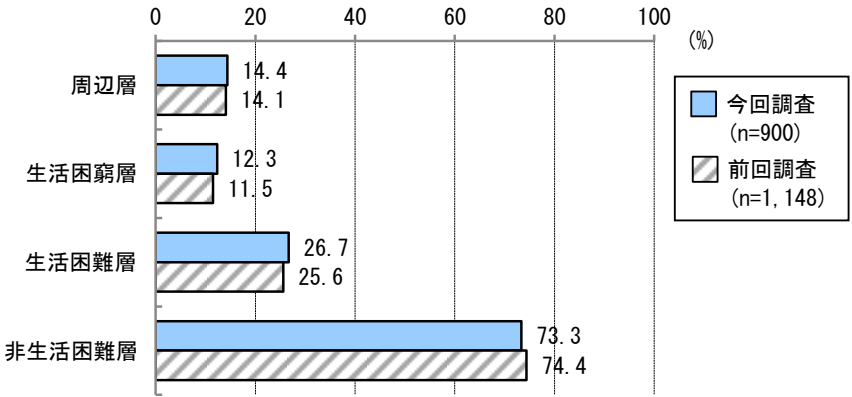
経済的な理由で、公共料金の滞納、食料・衣類を買えなかった経験など5項目のうち、1つ以上あると回答した世帯

【要素3】子どもの体験や所有物の欠如

子どもの体験や所有物などの10項目のうち、経済的な理由で欠如している項目が3つ以上あると回答した世帯



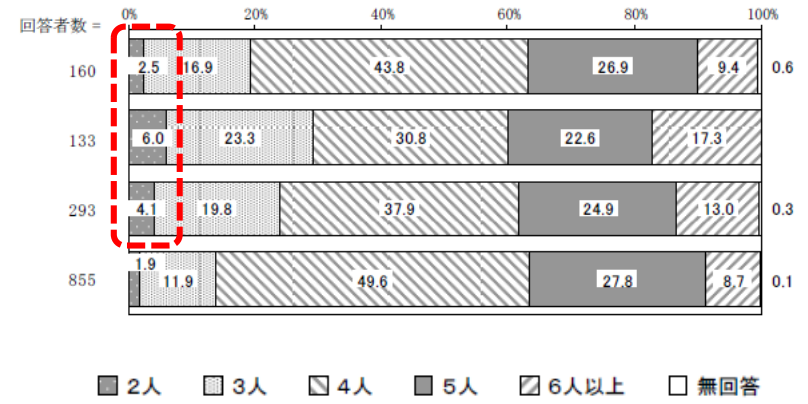
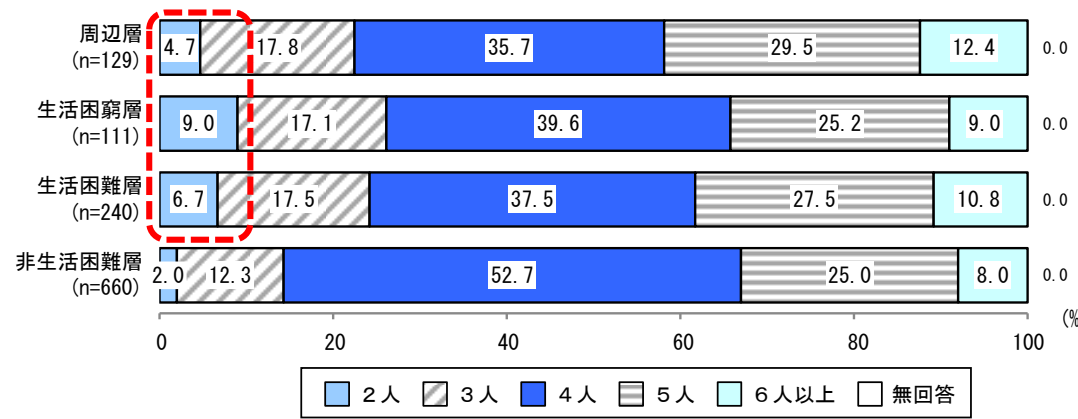
周 辺 層	いずれか1つの要素に該当
生活困窮層	2つ以上の要素に該当
生活困難層	生活困窮層 + 周辺層
非生活困難層	いずれの要素にも該当しない



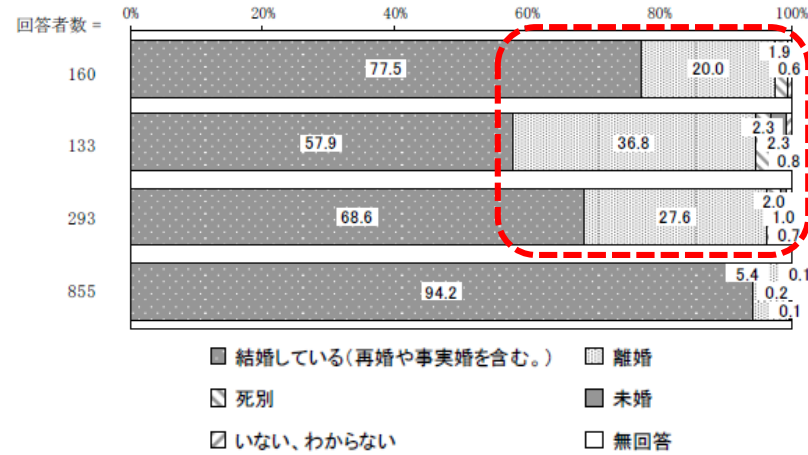
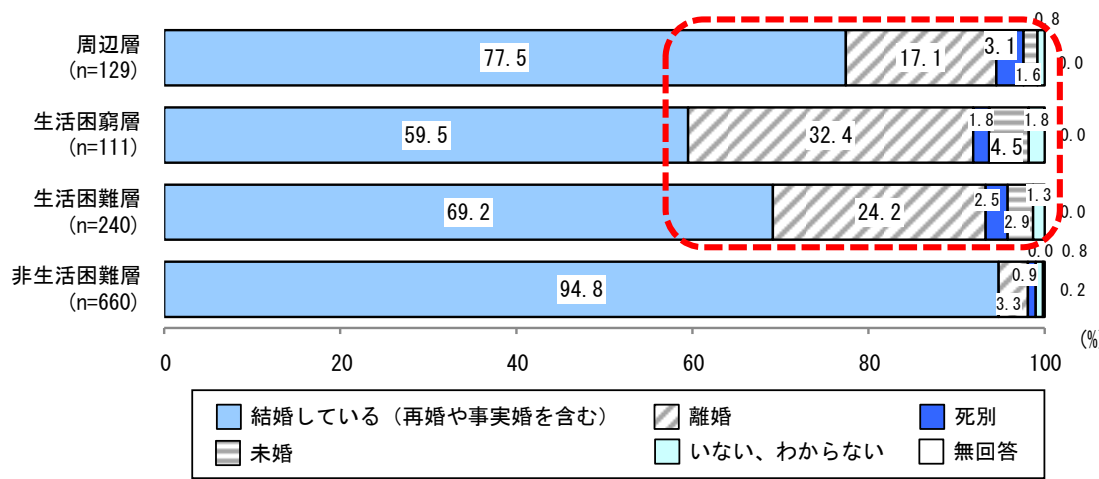
生活困窮層は1割程度、周辺層と合わせた生活困難層は25～26%と、前回調査の割合と大きな差はみられない。

Ⅲ 保護者調査結果 1. 回答者の属性

(3) 家族人数 (p. 5)



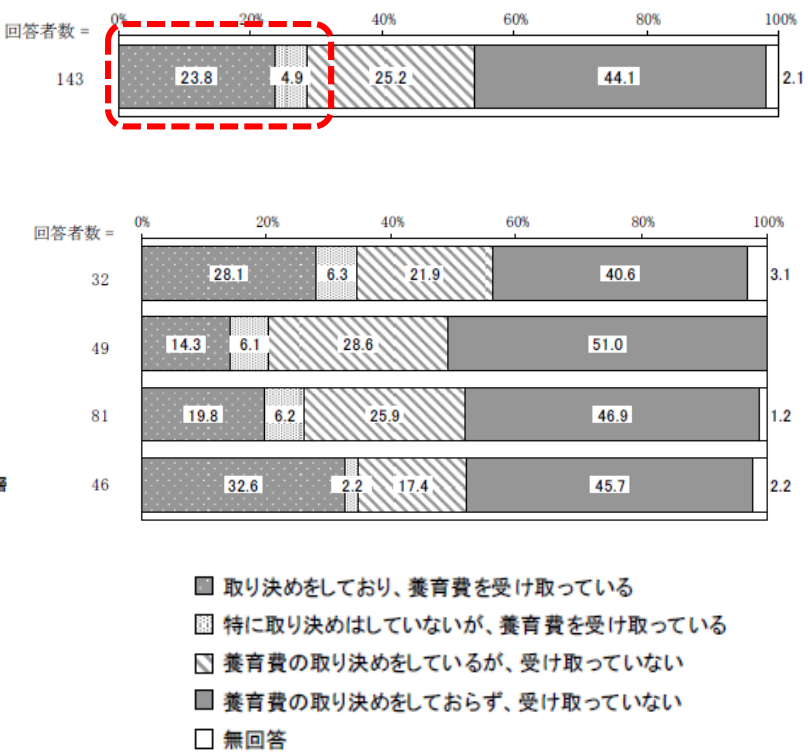
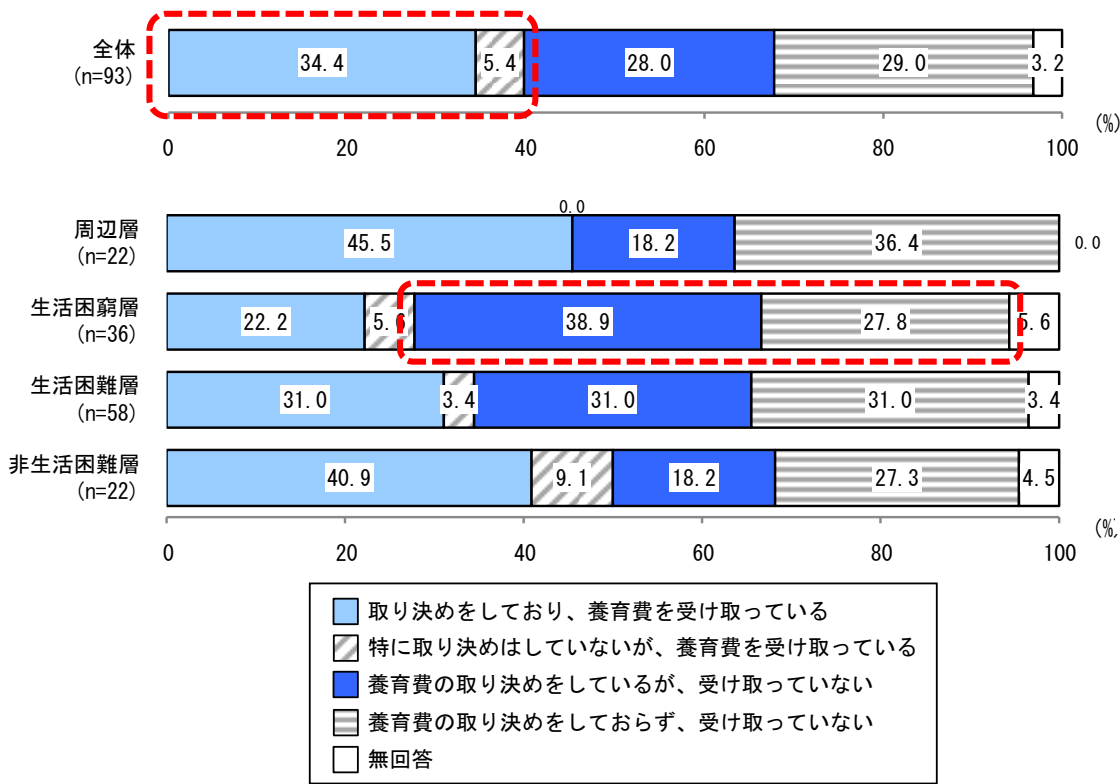
(6) 婚姻状況 (p. 10)



前回調査時同様、生活困窮層・生活困難層（周辺層を含む）などでは「ひとり親家庭」の割合が多い。
前回調査時に比べると、「離婚」の割合は減少し、「未婚」の割合がやや増加

Ⅲ 保護者調査結果 1. 回答者の属性

(7) 養育費の取り決め及び受け取り状況 (p.11)

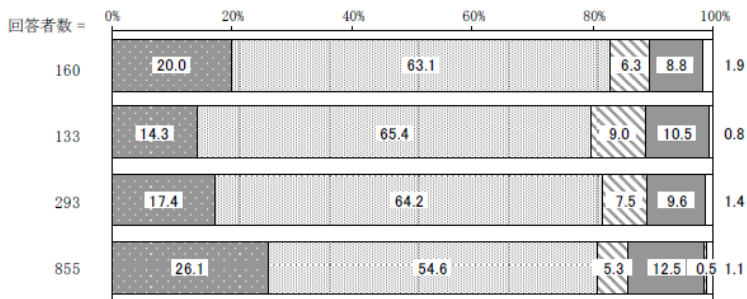
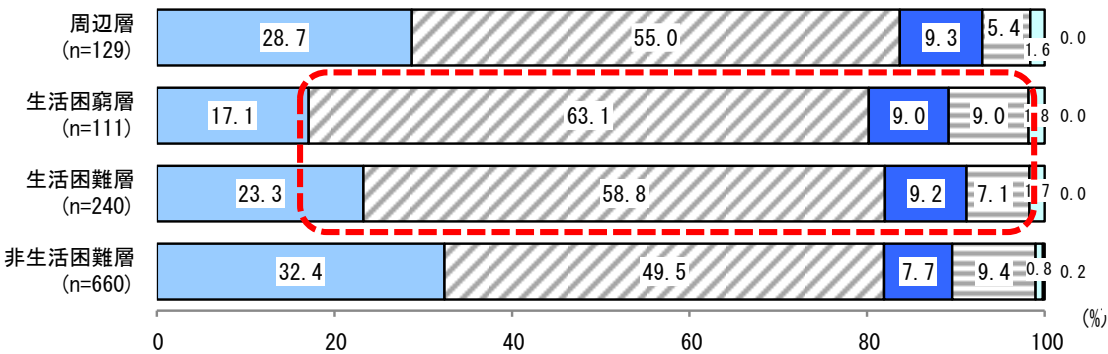


「離婚」家庭において、養育費が受け取れている家庭が増えている状況がみられる。
※ただし、生活困窮層では受け取っていない家庭が変わらず多い。

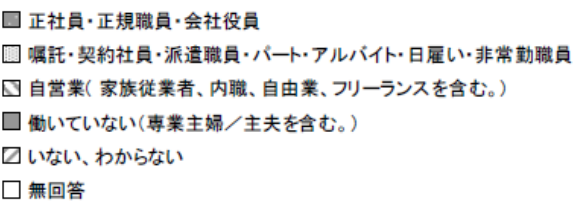
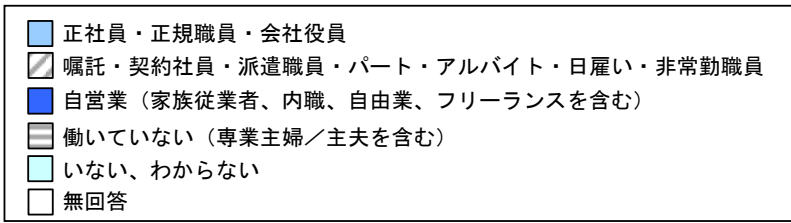
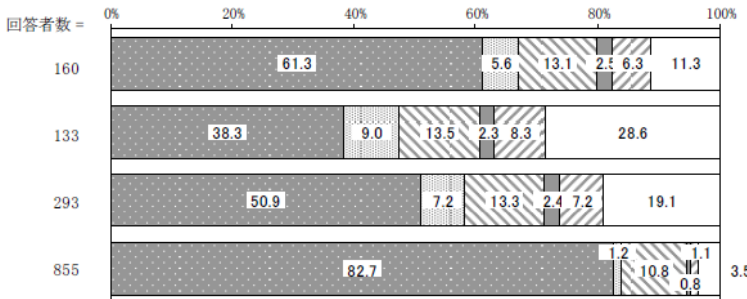
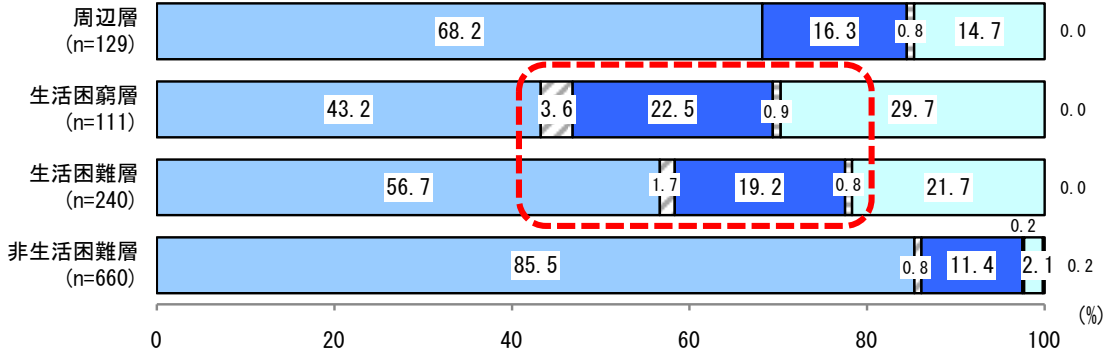
Ⅲ 保護者調査結果 2. 就労の状況

(1) 母親・父親の就労状況 (p.15)

【母親】



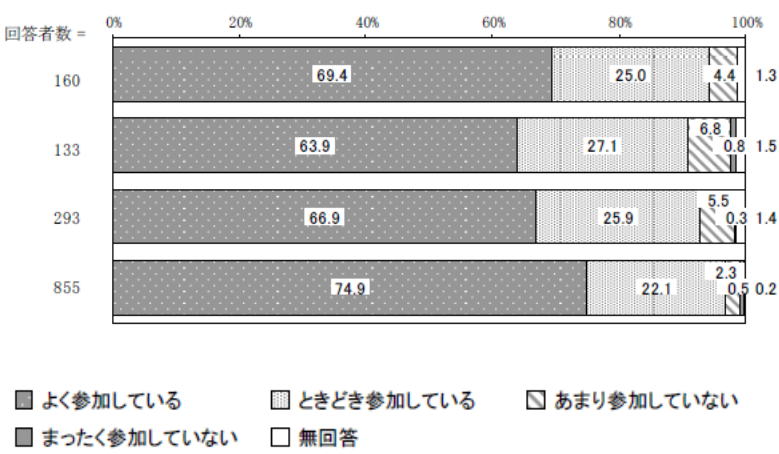
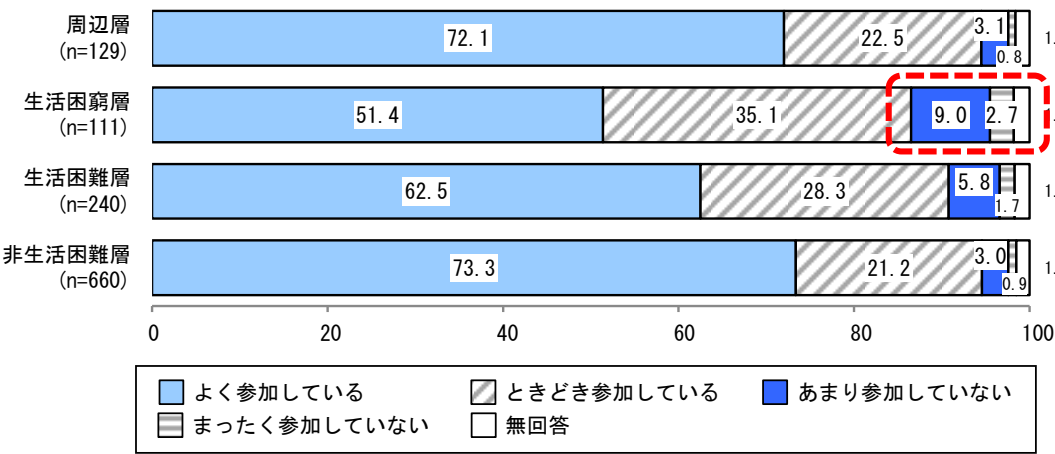
【父親】



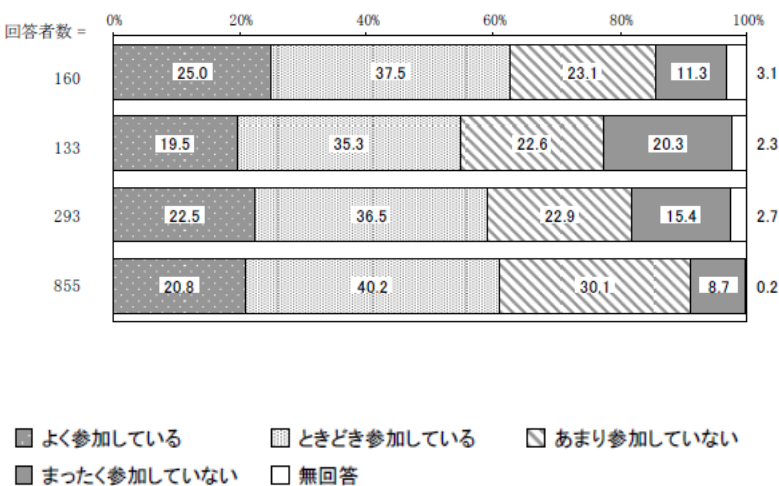
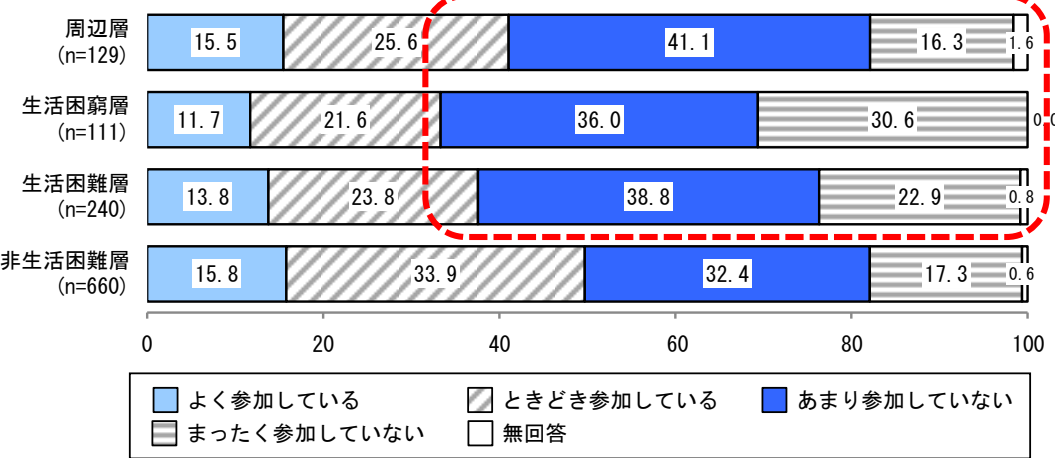
生活困窮層・生活困難層（周辺層を含む）での非正規就労率が高い。
ただし、前回調査時に比べると「正社員・正規職員・会社役員」の割合は増加

Ⅲ 保護者調査結果 5. 学校行事やPTA活動等への参加状況

(1) 授業参観や運動会などの学校行事への参加 (p.23)



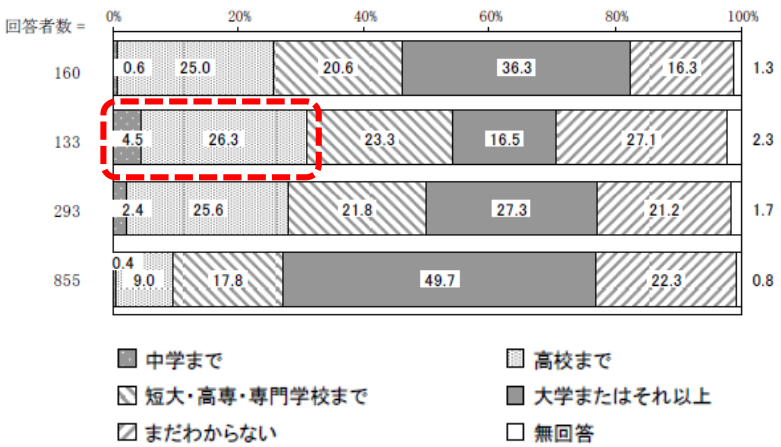
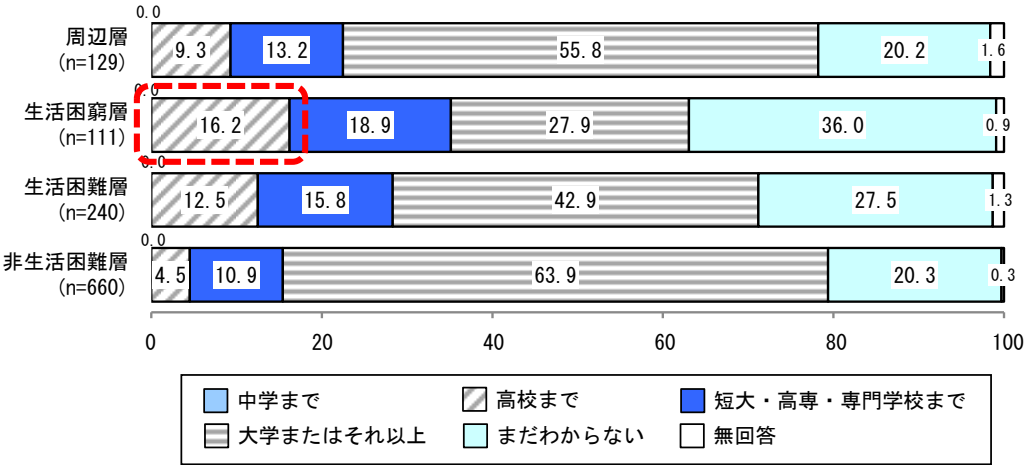
(2) P T A活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加 (p.24)



生活困窮層では、学校行事やP T A活動等への参加ができていない人が多い。
※P T A活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加は全体的に減少

Ⅲ 保護者調査結果 6.進学期待・展望

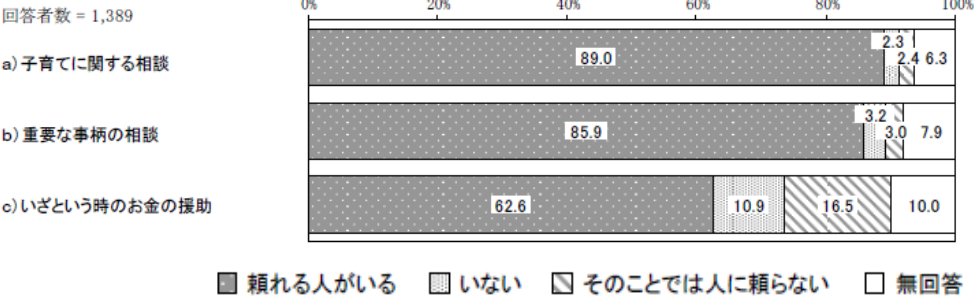
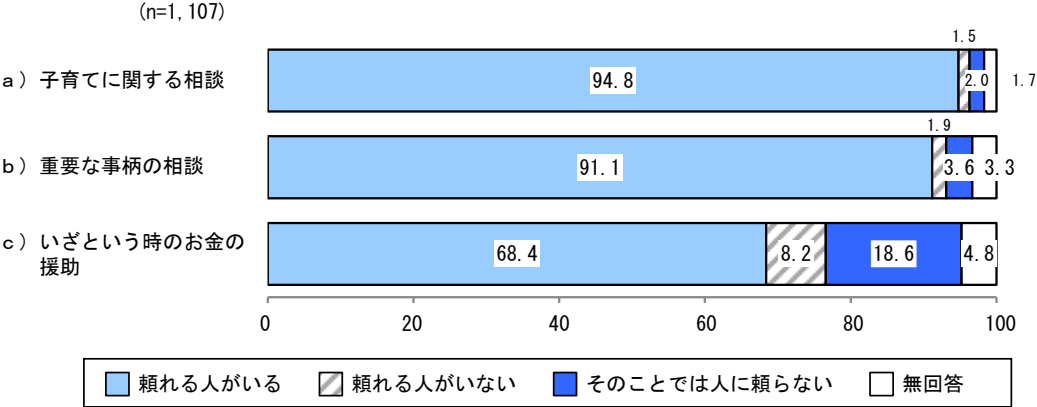
(1) 子どもに受けさせたい教育の段階 (p.25)



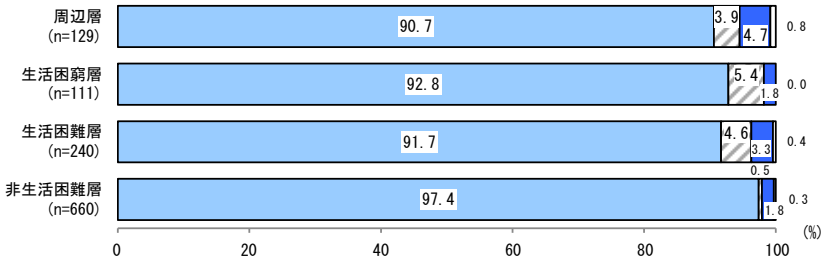
生活困窮層・生活困難層（周辺層を含む）では、高校までの割合が高い。
※前回調査に比べると「大学またはそれ以上」の割合が増加

Ⅲ 保護者調査結果 7. 頼れる人の有無・相手について

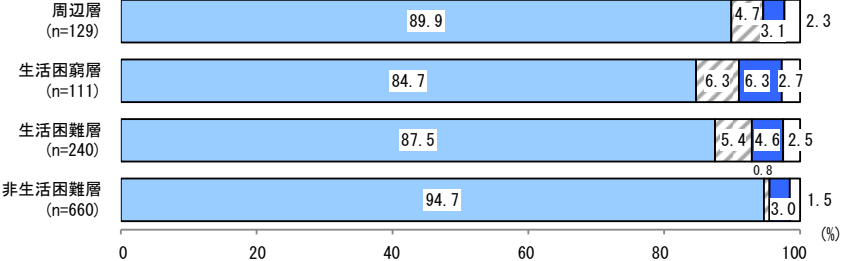
(1) 子育てに関する相談 (p.25)



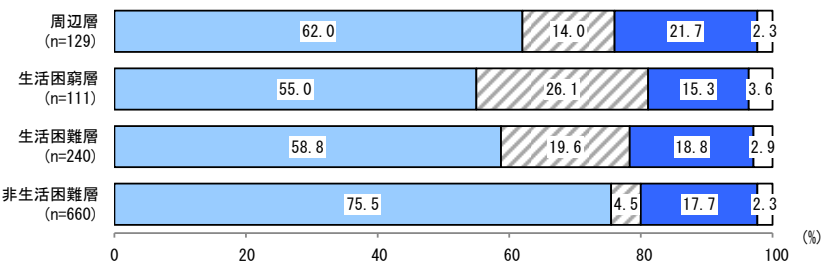
【子育てに関する相談】



【重要な事柄の相談】



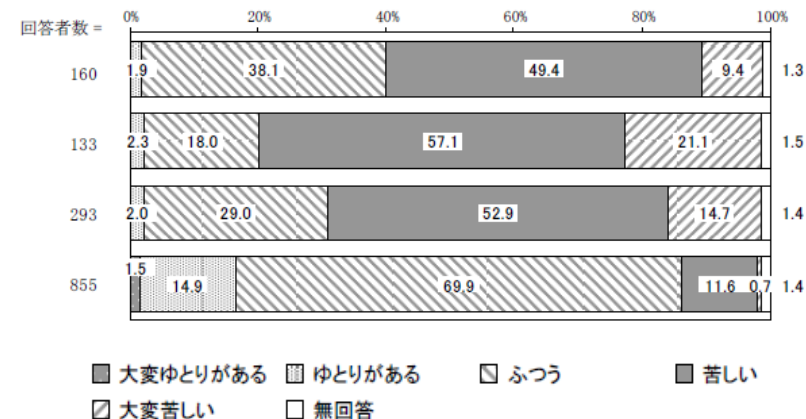
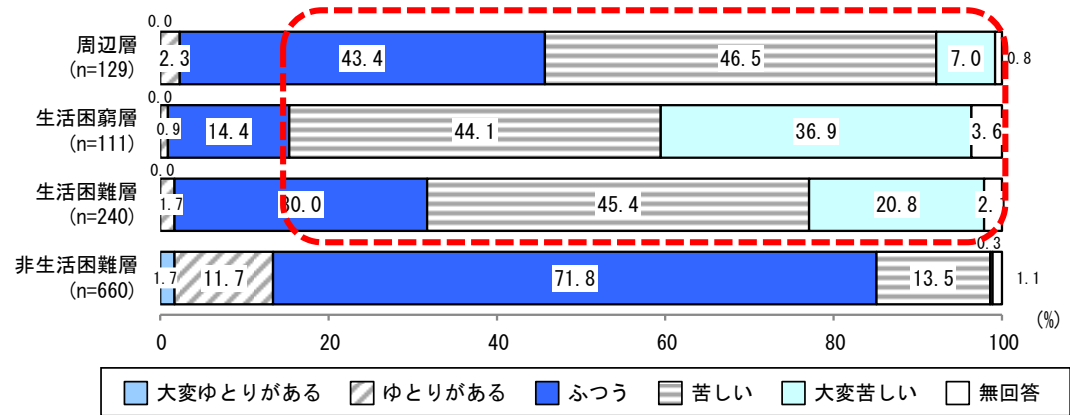
【いざという時のお金の援助】



前回調査に比べると、「頼れる人がいる」割合は増加
※生活困窮層では、重要な事柄の相談やいざという時の
お金の援助で相談できない・頼れる人がいない割合が
高い。

Ⅲ 保護者調査結果 8. 世帯の経済的状況

(1) 現在の暮らしの状況についての認識 (p.32)



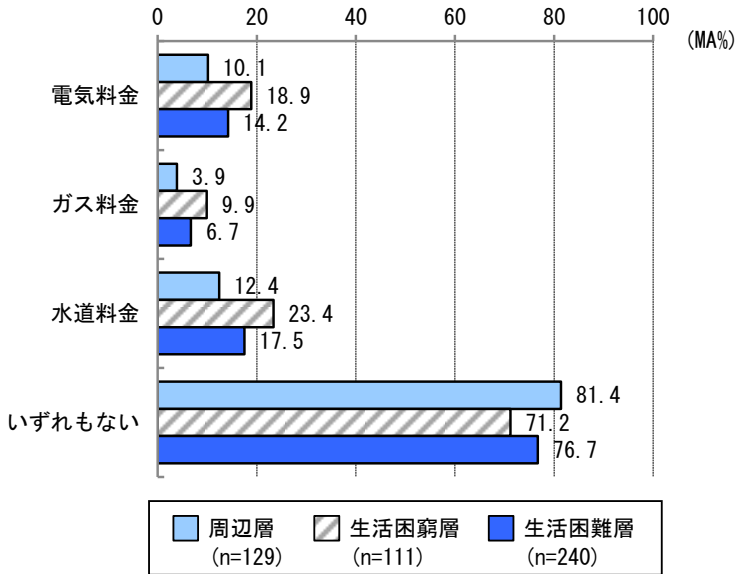
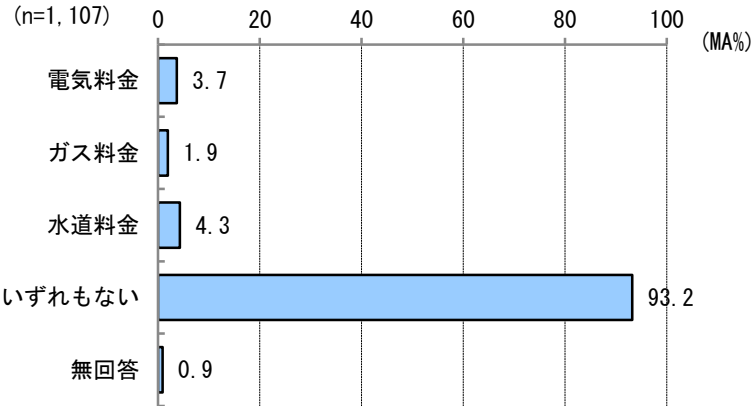
(2) 世帯全体の年間収入 (p.34)

		(単位：%)															
	n	50万円未満	50.5万円未満	51万円未満	51.5万円未満	52万円未満	52.5万円未満	53万円未満	53.5万円未満	54万円未満	54.5万円未満	55万円未満	55.5万円未満	56万円未満	56.5万円未満	57万円未満	57.5万円以上
周辺層	129	1.6	2.3	2.3	3.1	5.4	7.0	5.4	10.9	6.2	9.3	17.8	8.5	11.6	4.7	2.3	1.6
生活困窮層	111	1.8	3.6	15.3	12.6	7.2	18.0	9.9	5.4	2.7	6.3	8.1	3.6	2.7	0.9	0.9	0.9
生活困難層	240	1.7	2.9	8.3	7.5	6.3	12.1	7.5	8.3	4.6	7.9	13.3	6.3	7.5	2.9	1.7	1.3
非生活困難層	660	-	-	-	-	-	0.2	1.2	2.9	5.0	6.7	12.4	14.7	16.1	14.5	12.7	13.6

：最も多い割合

暮らしの状況については、「苦しい」と感じている人が増加
生活困窮層では「250～300万円未満」が最も多く、300万円未満の世帯が6割近く（58.5%）を占める。

(5) 経済的な理由で未払いになった公共料金 (p.37)

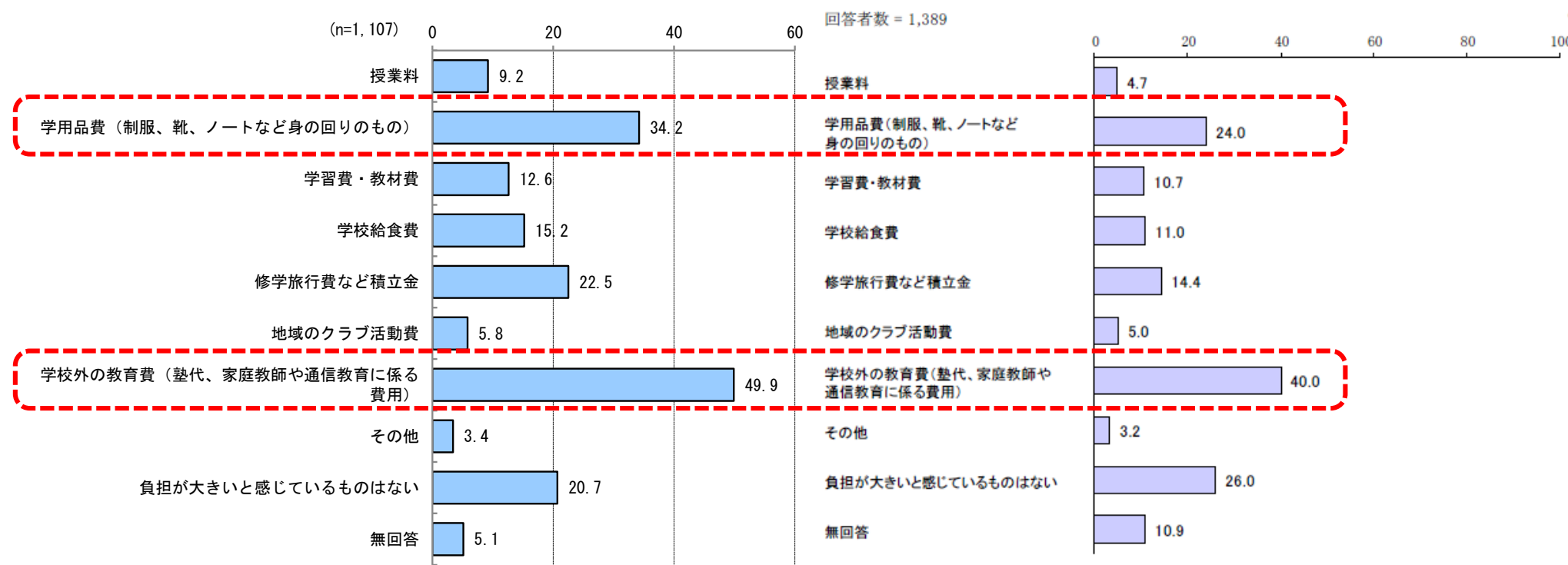


単位 : %

区分	回答者数 (件)	電気料金	ガス料金	水道料金	無回答
周辺層	160	9.4	6.9	12.5	82.5
生活困窮層	133	23.3	23.3	26.3	63.9
生活困難層	293	15.7	14.3	18.8	74.1
非生活困難層	855	—	—	—	100.0

前回調査と比べると、生活困窮層・生活困難層（周辺層を含む）で未払いになった割合は低くなっている。

(9) 教育費で負担が大きいと感じているもの (p.53)



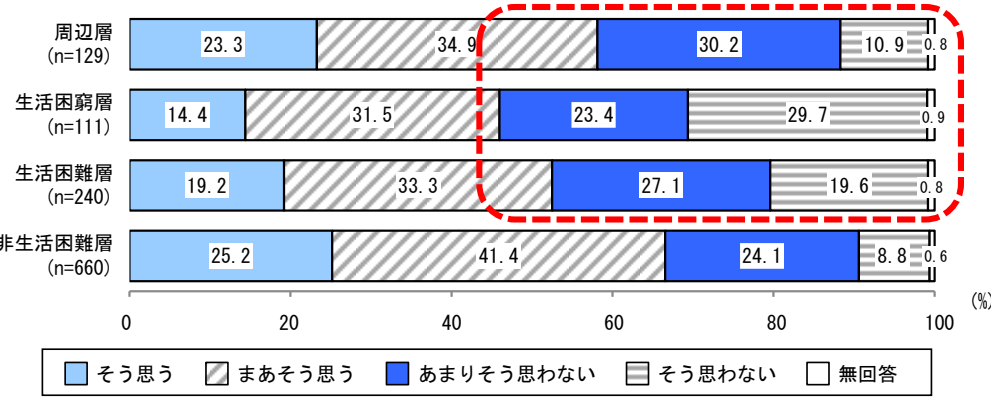
前回調査と比較すると、すべての項目で負担が大きいと感じている割合が高くなっている。
特に、学用品費・学校外の教育費では、約10ポイントの増加がみられる。

※「学用品費」では生活困窮層、「学校外の教育費」では非生活困難層での割合が高い

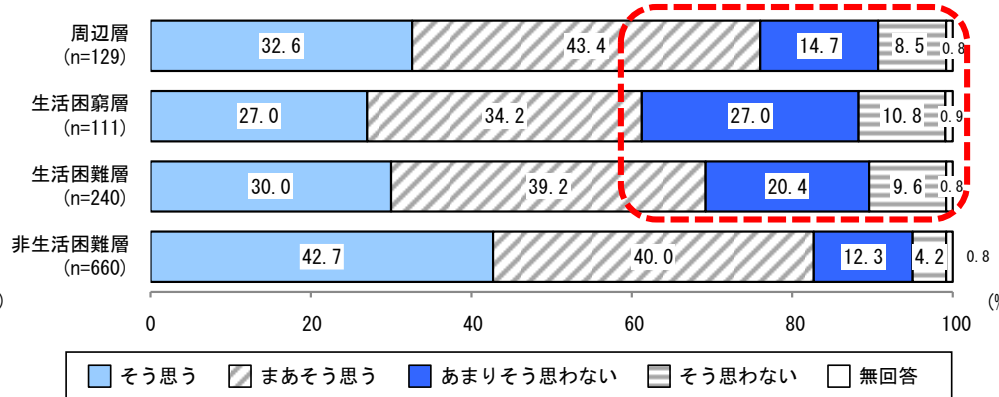
Ⅲ 保護者調査結果 9. 心理的な状態

(2) 18歳になるまでの家庭や地域などについての状況 (p.59-63)

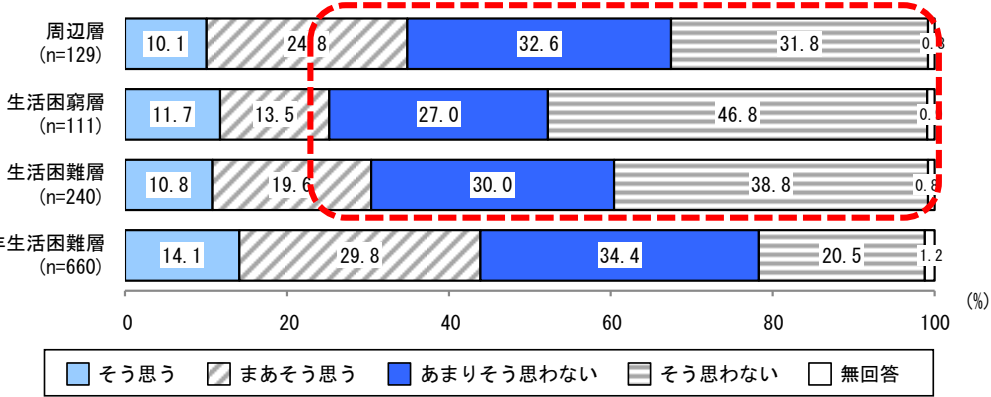
【家族には自分の気持ちを話すことができた】



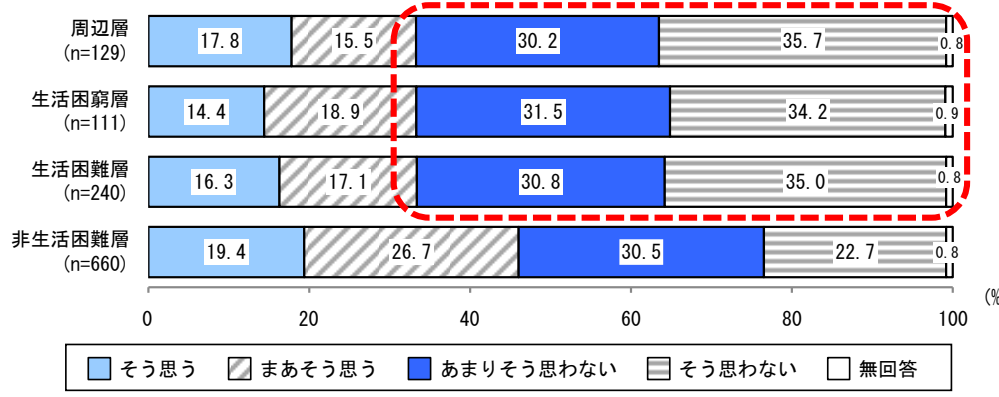
【つらい時には家族が助けてくれた】



【学校には相談できる先生がいた】



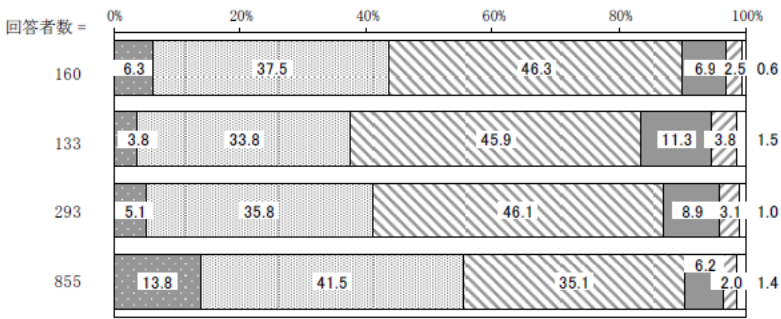
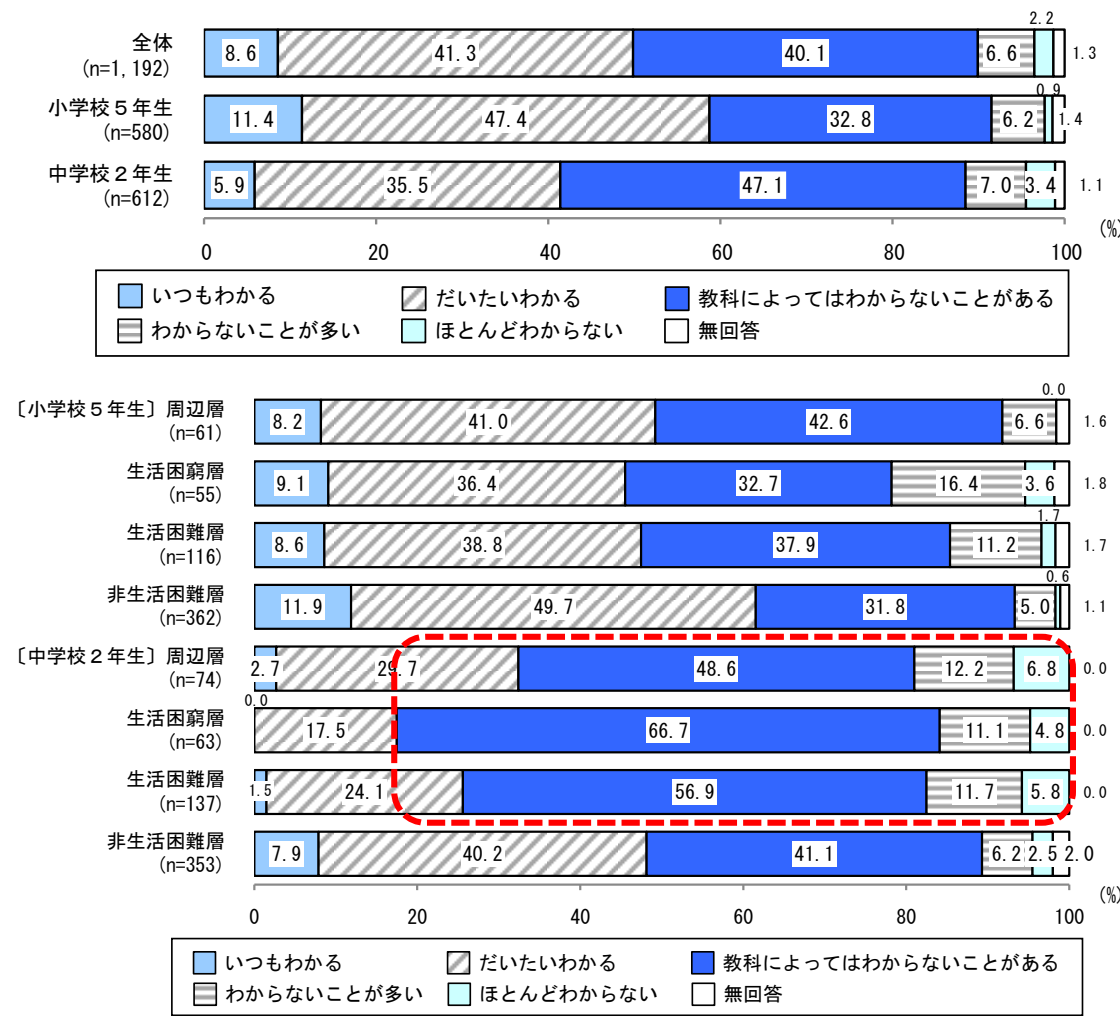
【両親以外に、話を聞いてくれる大人がいた】



生活困窮層・生活困難層（周辺層を含む）では、子どもの頃に家族や周囲の大人との関係が薄い傾向がみられる

IV 小中学生調査結果 2. 学校・教育

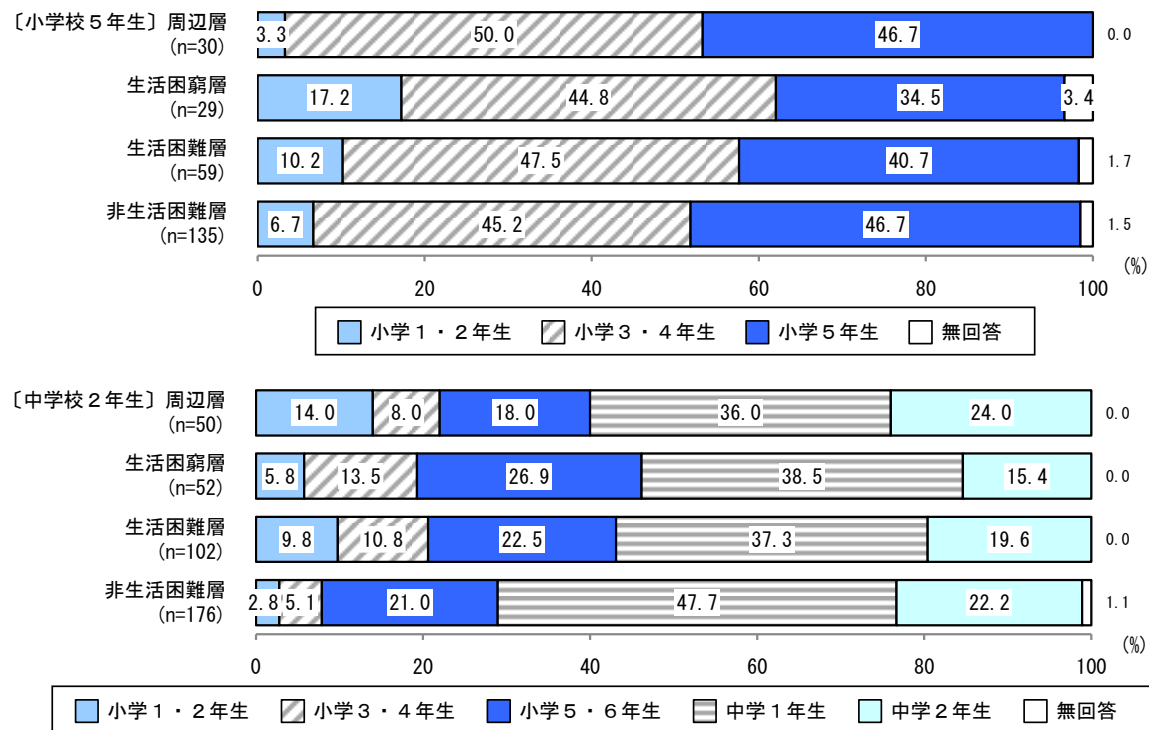
(3) 授業の理解状況 (p.75)



中学生で『わからないことがある』児童生徒が増加しており、特に生活困窮層・生活困難層（周辺層を含む）でその割合が高い

IV 小中学生調査結果 2. 学校・教育

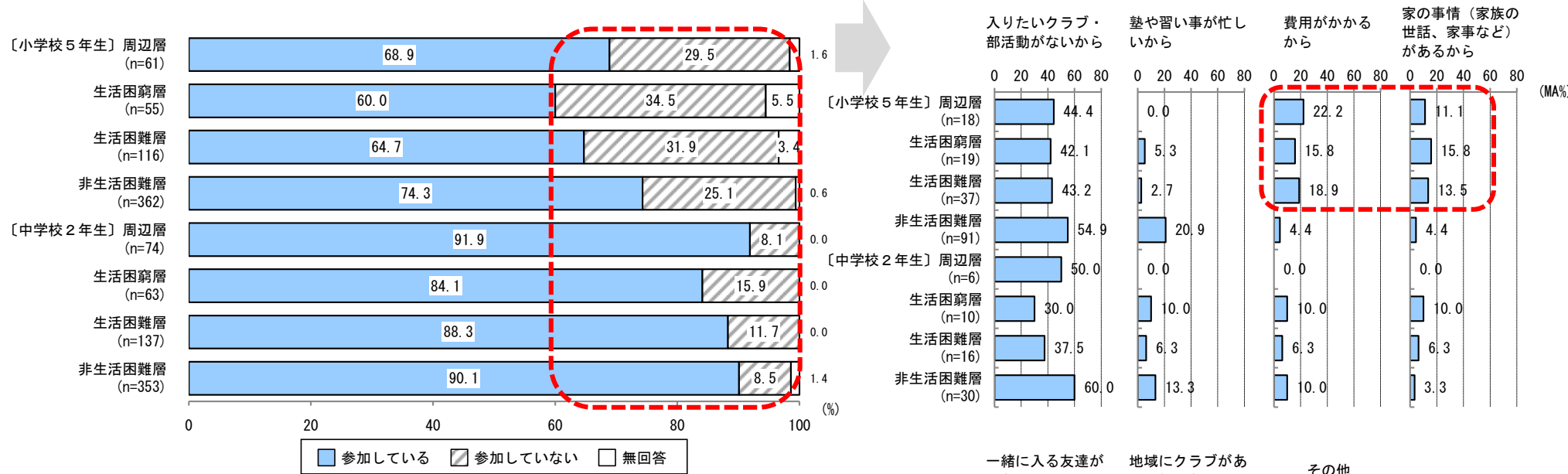
(4) 授業がわからなくなった時期 (p.76)



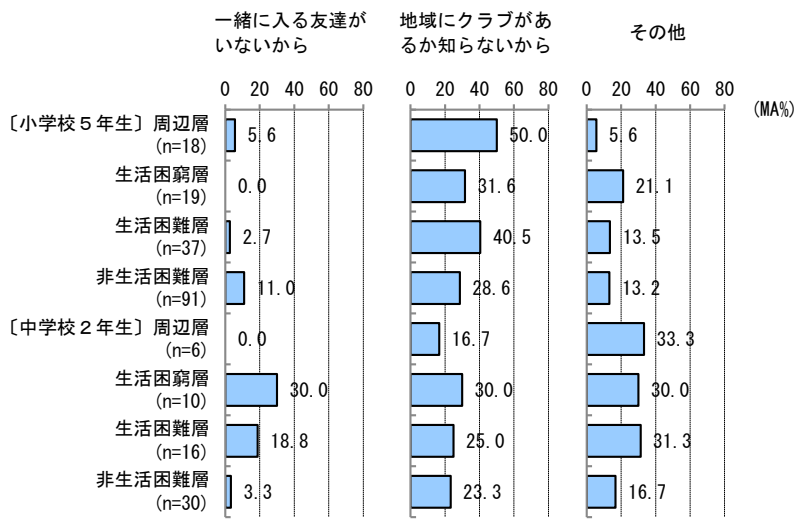
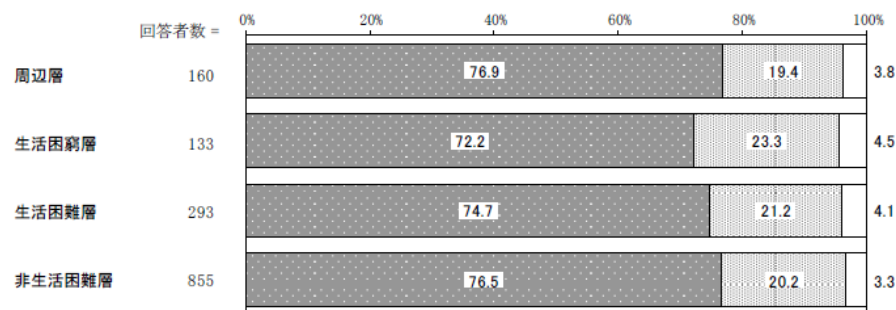
授業がわからなくなった時期としては、小学校高学年（4～5年生）、中学1年生が多い

IV 小中学生調査結果 3. 部活動等への参加状況

(1) 地域のクラブや学校の部活動への参加状況、参加していない理由 (p. 80・82)



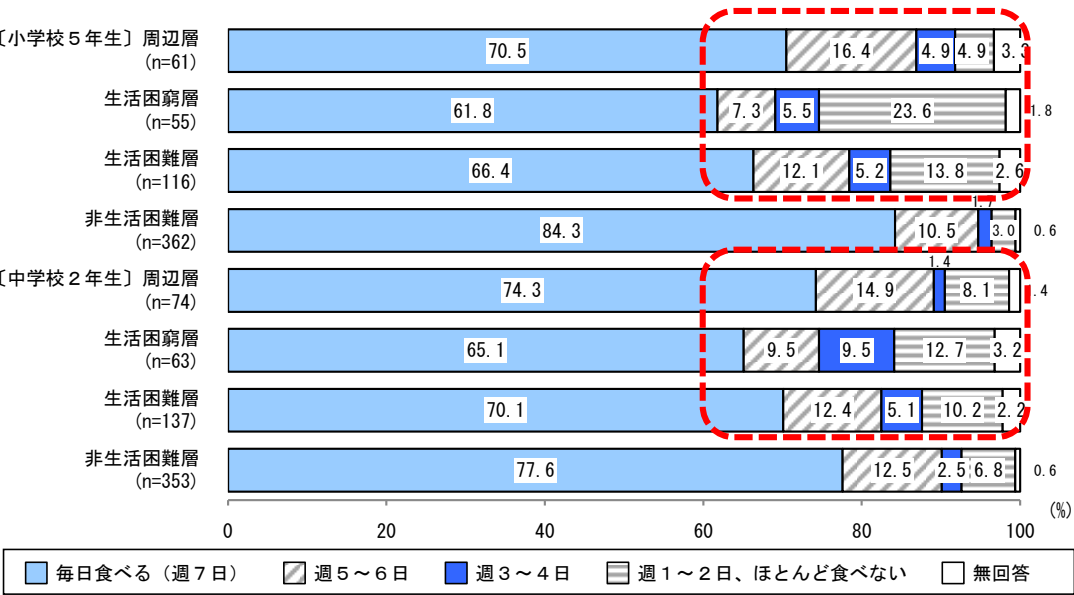
生活困窮層・生活困難層（周辺層を含む）で、地域のクラブや学校の部活動に参加していない児童生徒が多い。
また、その理由としては、小学生では「費用がかかるから」、「家の事情」などの割合が高い。



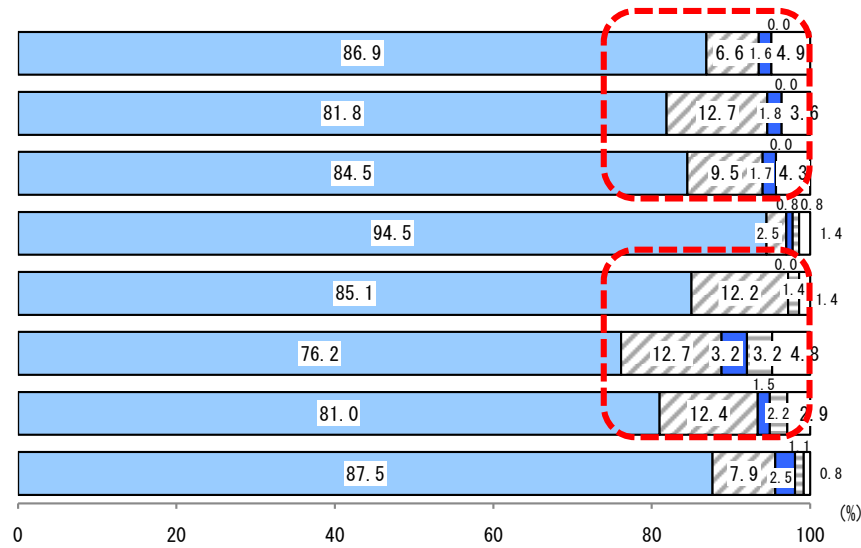
IV 小中学生調査結果 4. 日常的な生活の状況

(1) 食事の状況 (p.84-85)

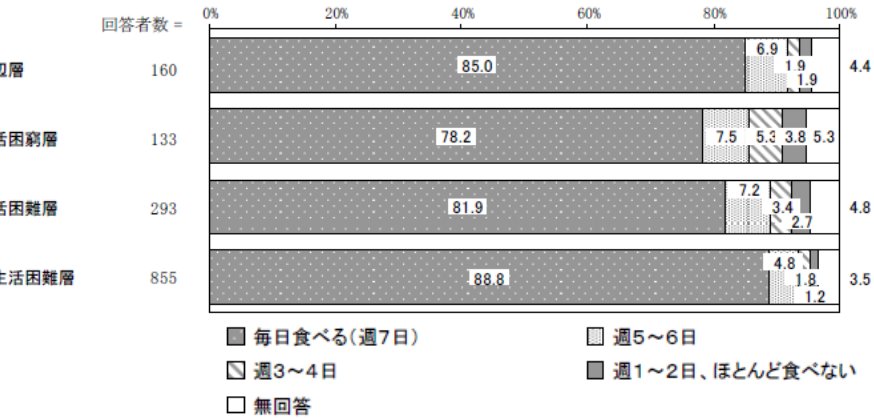
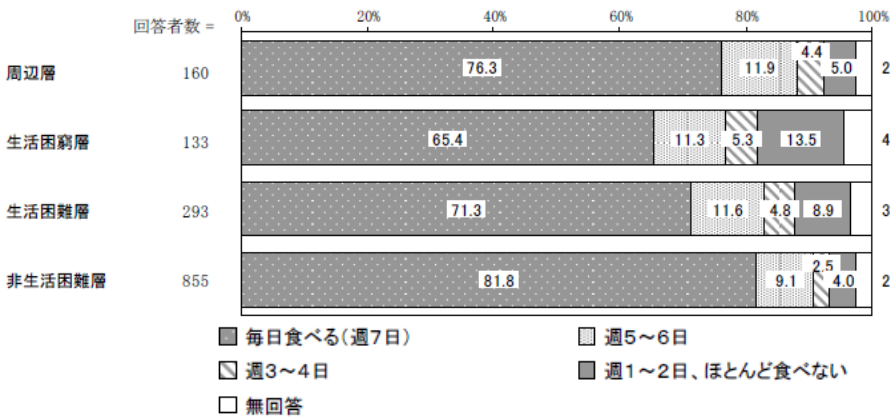
【朝食】



【夏休みや冬休みなどの期間の昼食】

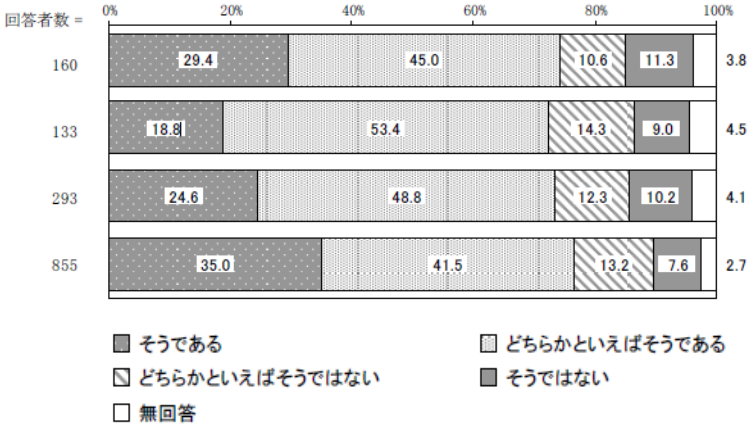
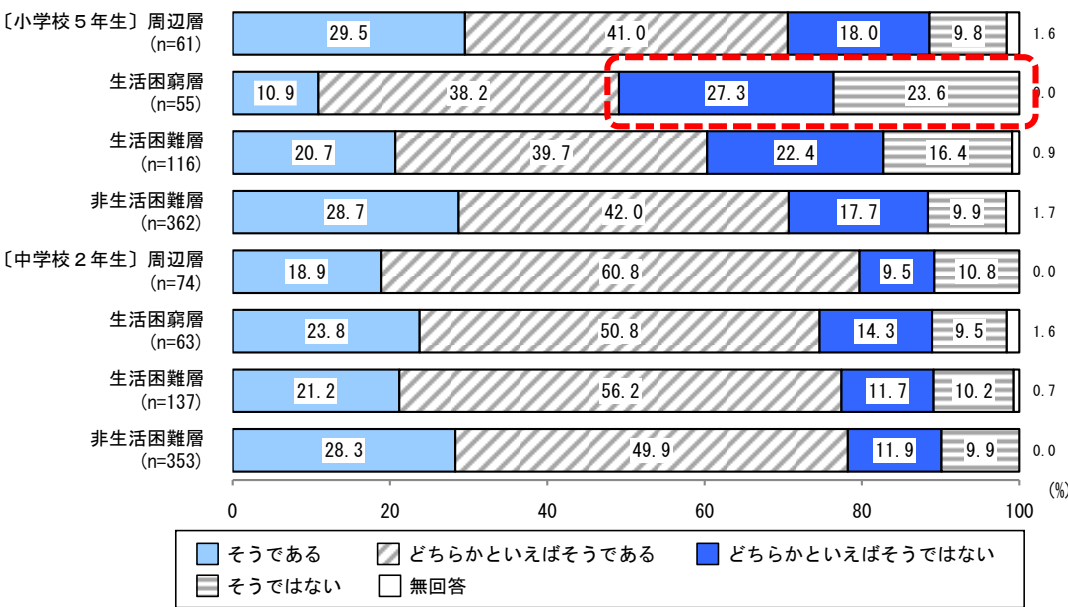
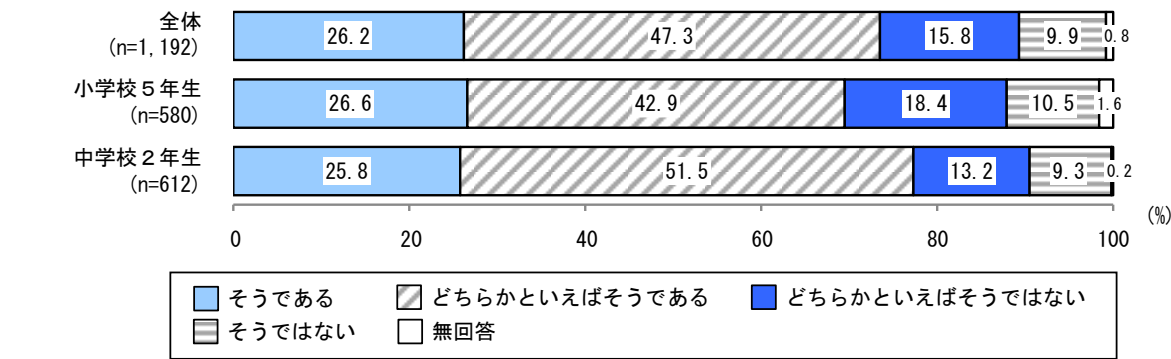


生活困窮層・生活困難層（周辺層を含む）では、朝食・長期休暇中の昼食を毎日食べていない児童生徒が多い



IV 小中学生調査結果 4. 日常的な生活の状況

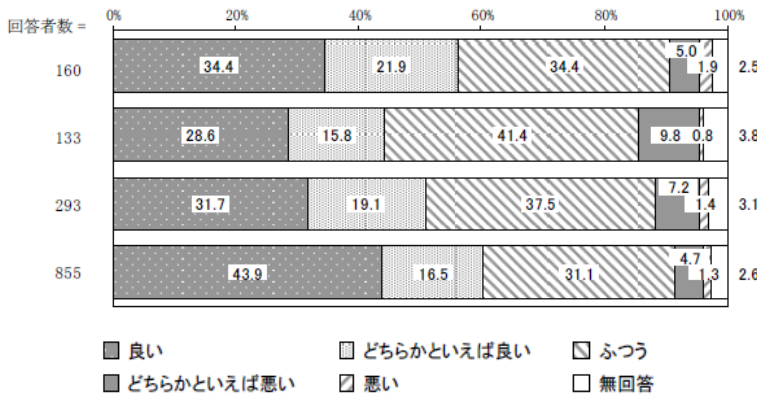
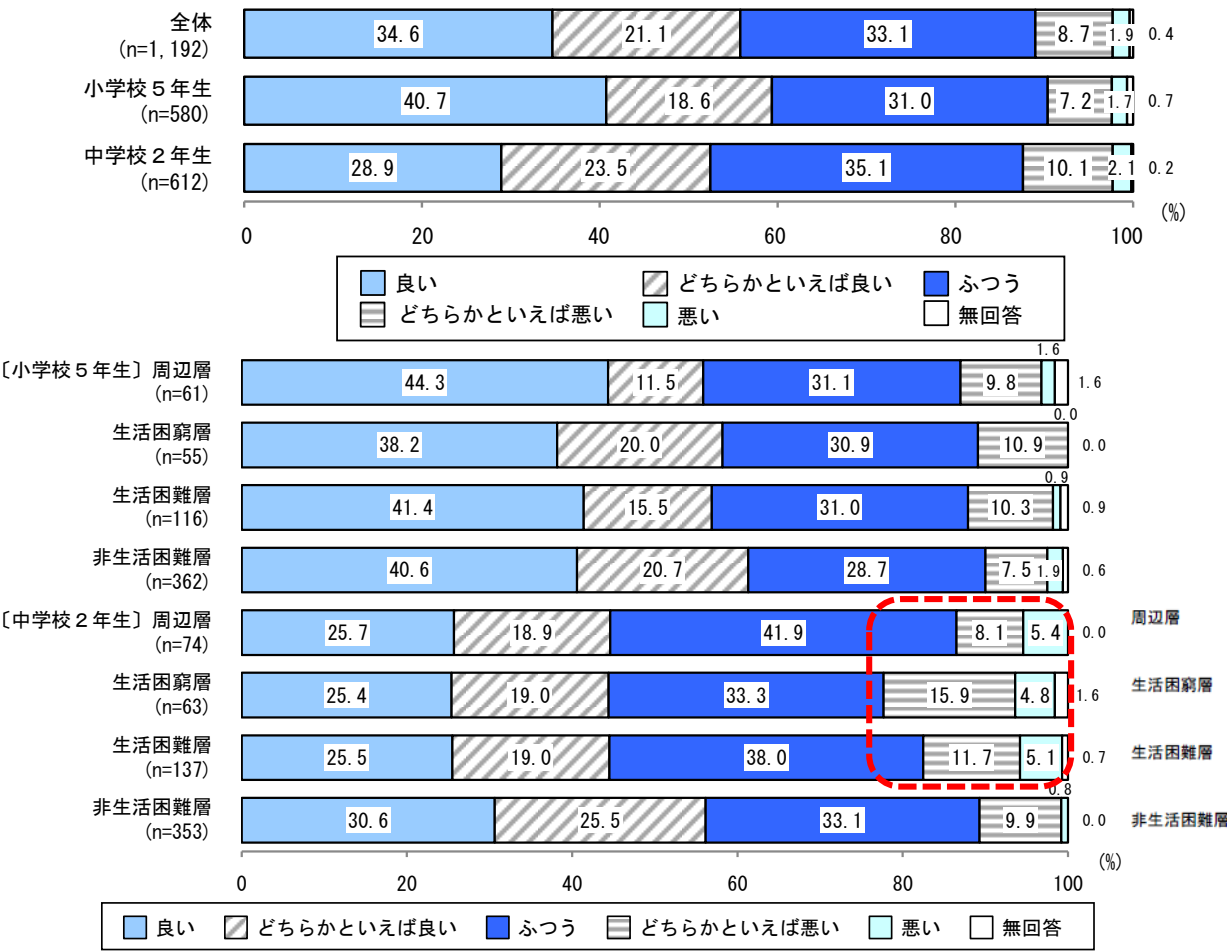
(2) 就寝時間の規則性 (p.86)



小学 5 年生の生活困窮層で、規則性のない児童が多い

IV 小中学生調査結果 4. 日常的な生活の状況

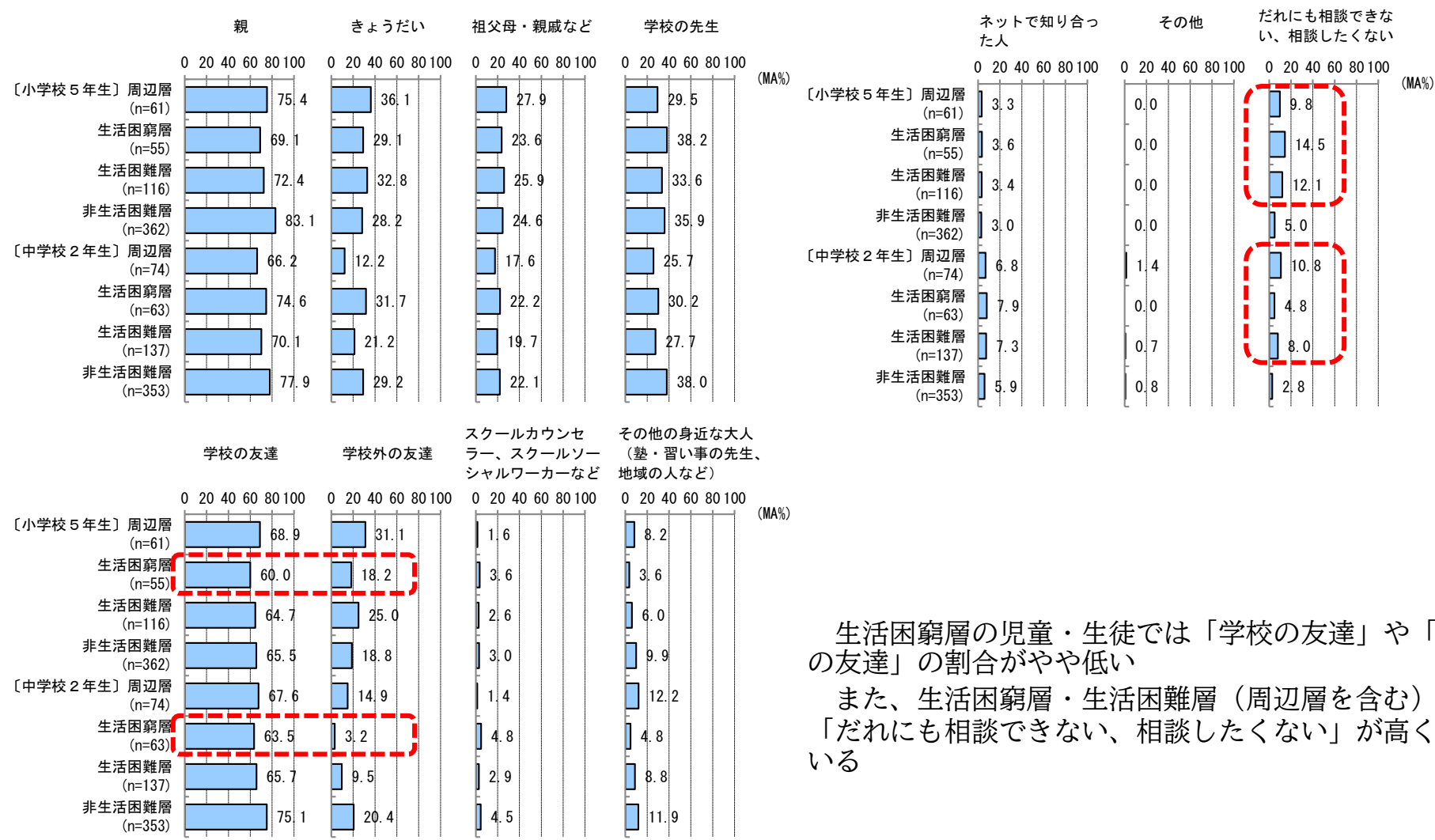
(5) 健康状態 (p.89)



小学生に比べて、中学生で健康状態を悪いと感じている生徒が多くなっており、特に生活困窮層・生活困難層（周辺層を含む）でその割合が高まっている。

IV 小中学生調査結果 4. 日常的な生活の状況

(8) 困っていることや悩みごとがあるときの相談相手 (p.100-101)

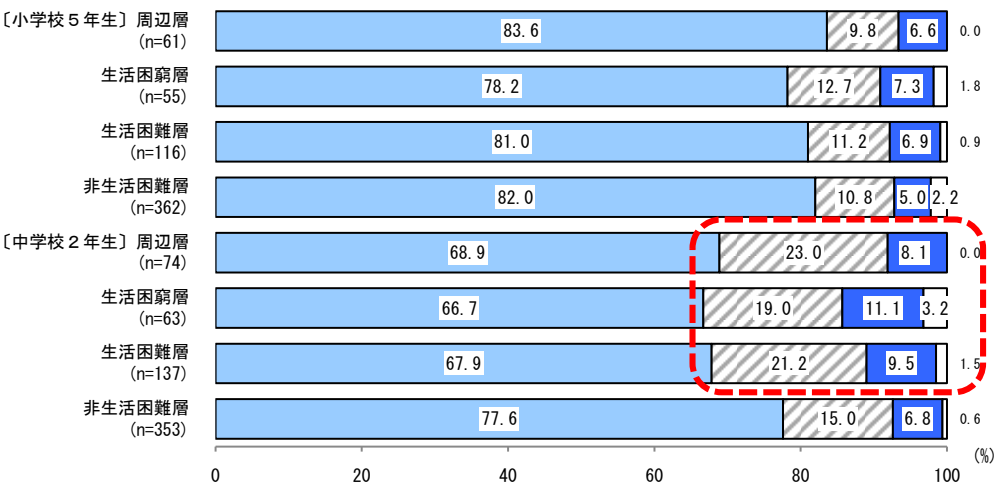


生活困窮層の児童・生徒では「学校の友達」や「学校外の友達」の割合がやや低い
また、生活困窮層・生活困難層（周辺層を含む）では「だれにも相談できない、相談したくない」が高くなっている

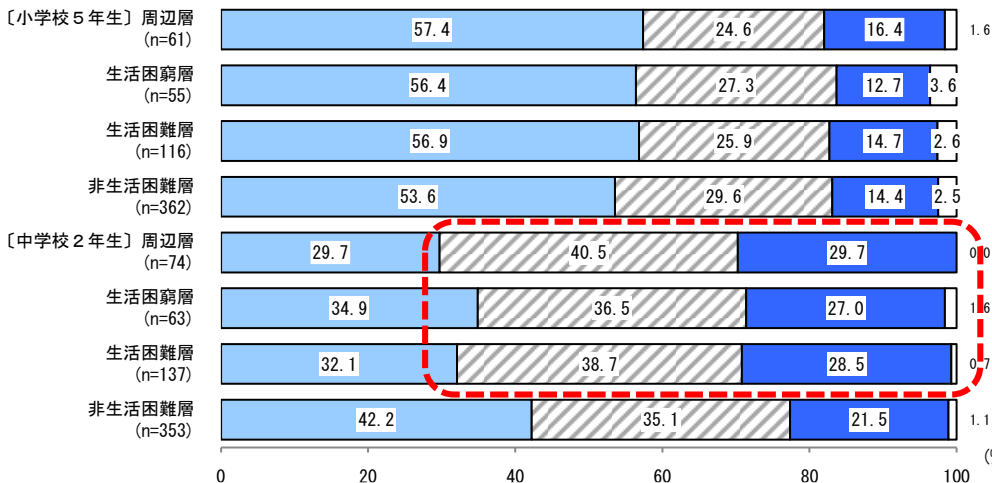
IV 小中学生調査結果 5. ふだんの生活で感じていること

(1) 子どもの心理的な状態 (p.104-113)

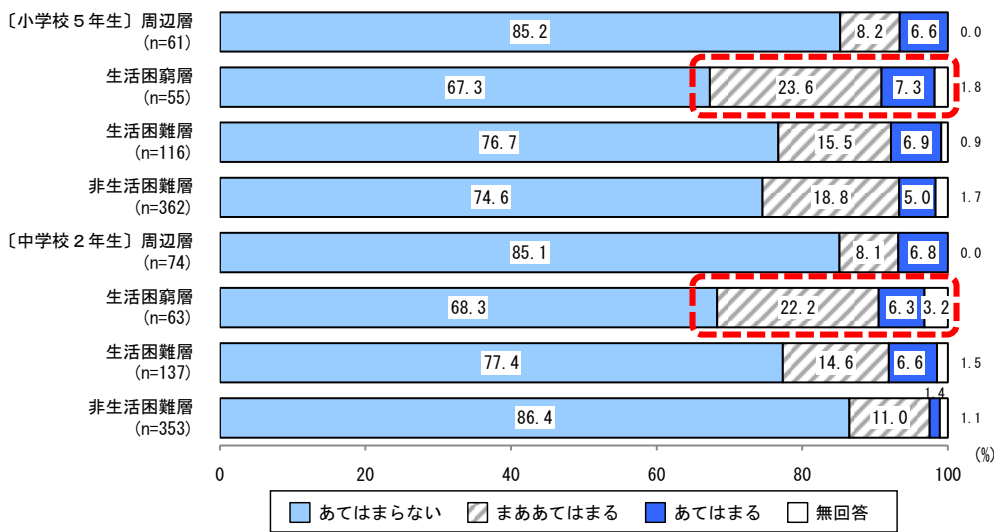
【私は、たいてい一人でいる】



【私は、心配ごとが多く、いつも不安だ】



【他の子どもから、いじめられたり、からかわれたりする】

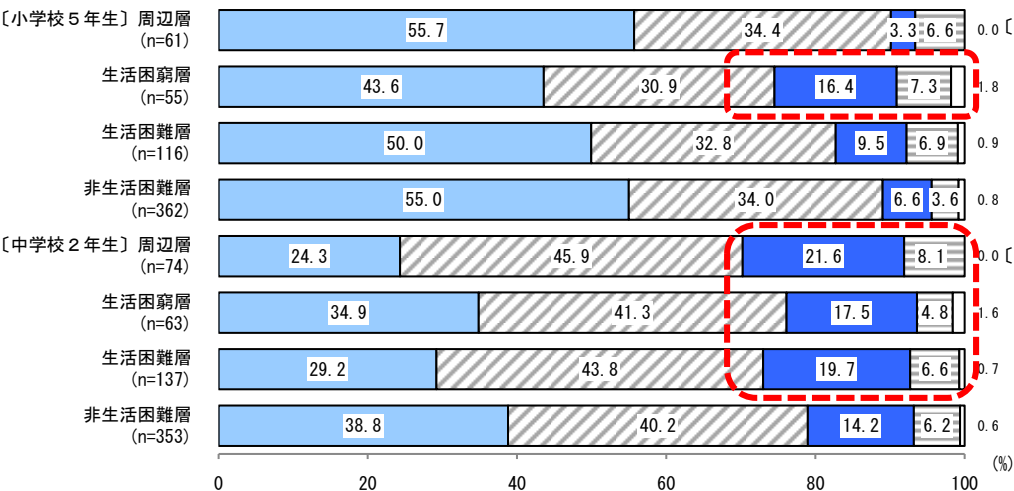


小学生に比べると、中学生で心理的な状態の変化が大きい。
また、いじめやからかいについては、生活困窮層で『あてはまる』の割合が高い

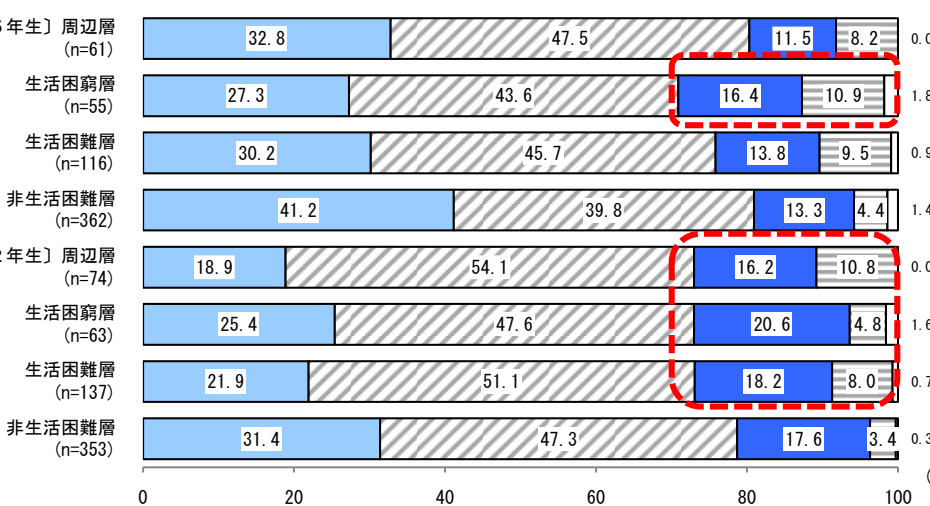
IV 小中学生調査結果 5. ふだんの生活で感じていること

(2) 日常生活の中で感じていることについて (p.114-119)

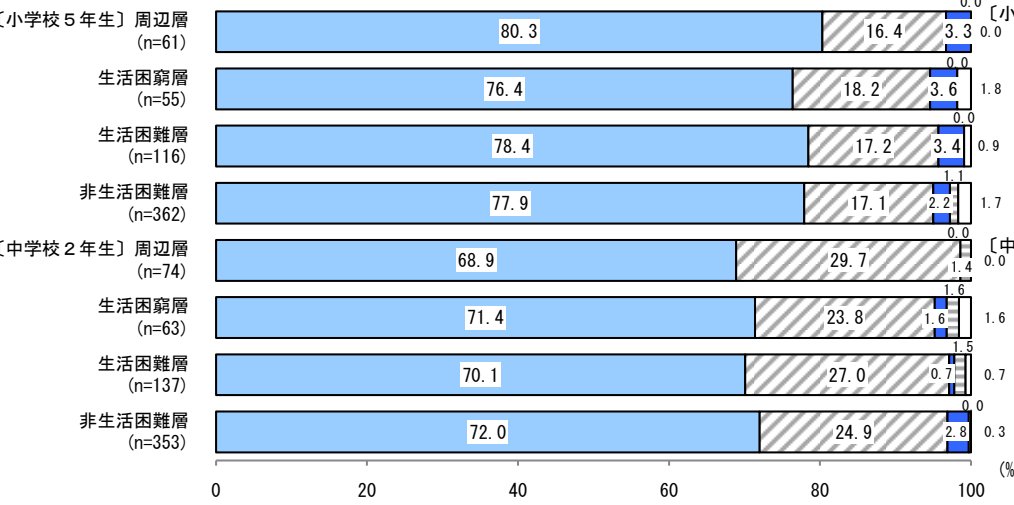
【頑張れば、むくわれる】



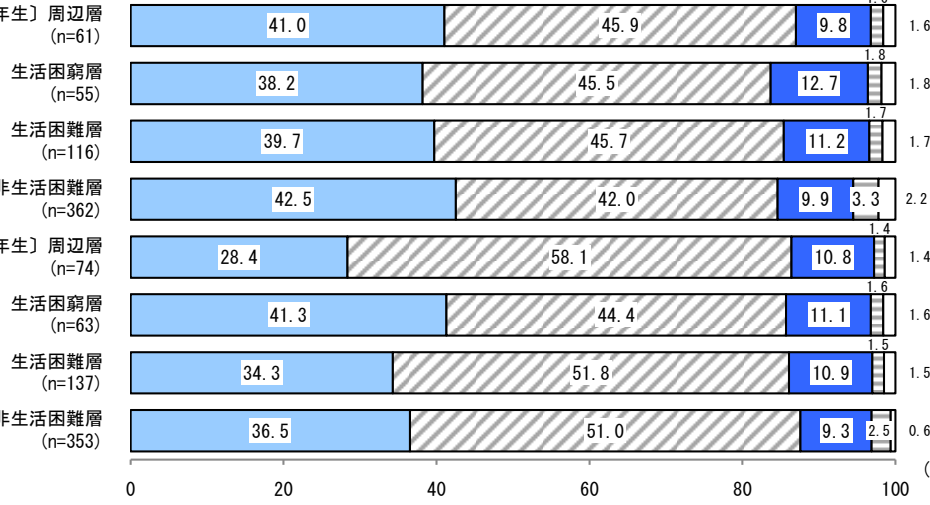
【自分はだれかの役に立つことができる】



【自分は家族に大事にされている】



【自分は友達に好かれている】



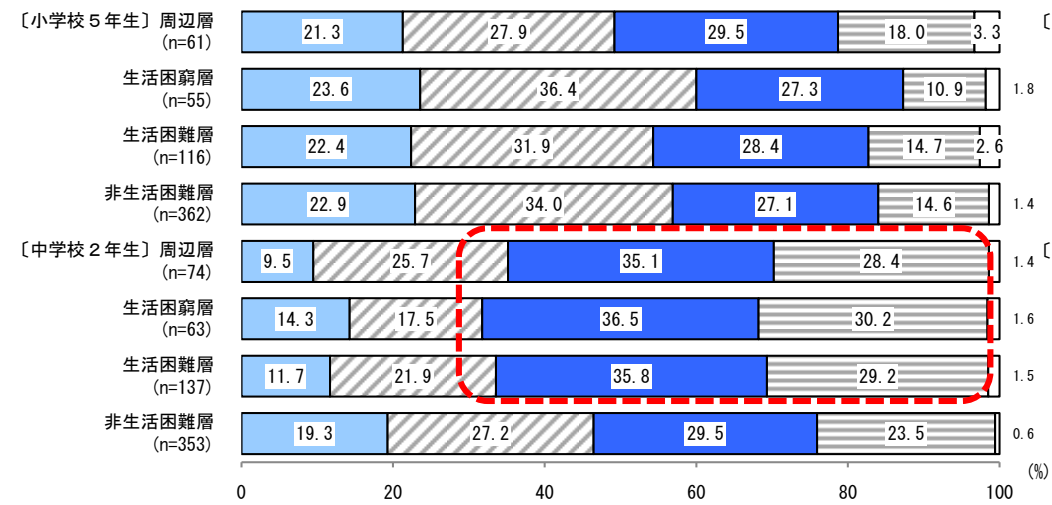
■ そう思う ■ まあそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

■ そう思う ■ まあそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

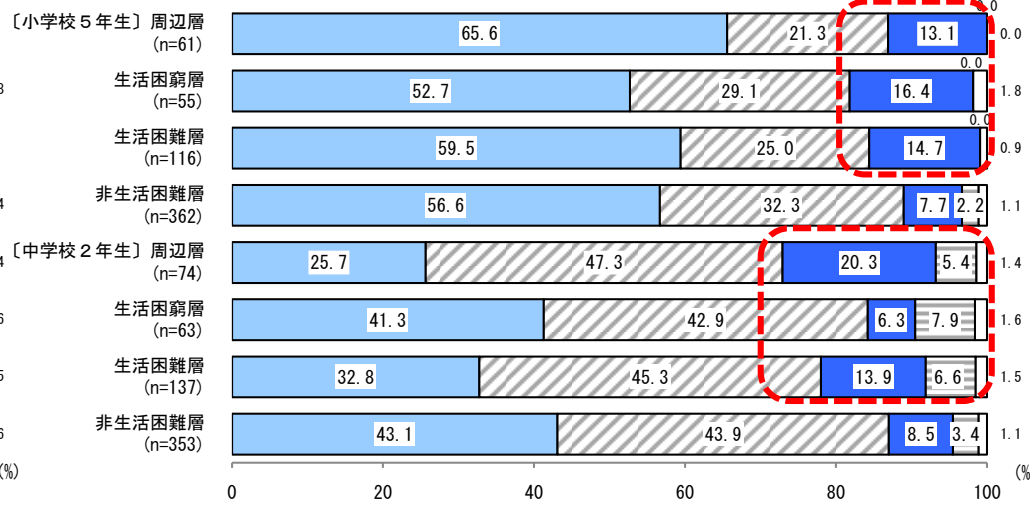
IV 小中学生調査結果 5. ふだんの生活で感じていること

(2) 日常生活の中で感じていることについて (p.114-119)

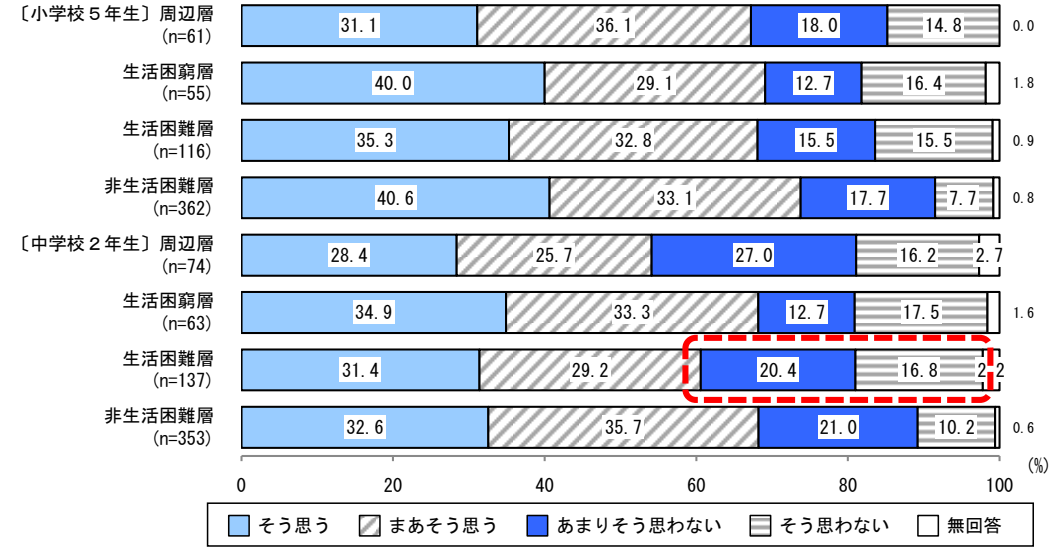
【不安に感じることはない】



【毎日の生活が楽しい】



【自分のことが好きだ】



小学生に比べると、中学生で不安を感じている人が多く、特に生活困難層ではその割合が高い。

また、誰かの役に立つことができる、頑張ればむくわれる、自分のことが好きだ、などの自己肯定感につながる項目では、生活困難層で低い結果となっている。